

コロナウイルス文献情報とコメント(拡散自由)

2023年9月22日

BMJ:

診療中にコロナに感染した医師のロングコロナは労災だ

【松崎雑感】

新型コロナに感染した後、体調不良が続く人々は多いようです。特に感染者と直接
接触する仕事のヘルスケアワーカーでは、25人に1人がロングコロナとなっている
ようです。仕事中に特定の病原体に感染し、後遺障害が続く場合、労災、職業病
と認定する必要があります。イギリスの現状をお知らせします。

日本でもしっかり調査して、職業上のロングコロナの方は、労災と認めることが必要で
しょう。

診療中にコロナに感染した医師のロングコロナは労災だ

Waters A. Long covid: the doctors' lives destroyed by an illness they caught while doing their jobs. *BMJ*. 2023;382:p1983. Published 2023 Sep 20. doi:10.1136/bmj.p1983

働けなくなった、子どもと遊べなくなった、自宅を売った、破産した—ロングコロナとなった医師たちは政府、NIHからの支援が足りないと呼んでいる

2020年8月にケリー・ファンリー氏がブラッドフォード王立診療所の外科病棟に正式採用された時、彼女は天にも昇る心地だったと。夢がかなえられたのだ。

コロナパンデミックが始まってからいくつかの病棟がコロナ病棟に転換された。彼女はその一つに配属された。

「入院患者はサージカルマスクと簡単なガウンを付けているだけだった。私はてっきり高性能マスクを着けて感染防止のフル装備が行われているはずだと思っていたのに意外だった。看護師に高性能マスクはどこにあるかと訊いたところ、サージカルマスクしかありませんと言われた。私は換気が不十分で、感染防護器具も十分でないコロナ病棟で週5日連続で、1日10時間勤務し、高濃度の新型コロナウイルスにばく露された。まるでコロナのスープに浸かっているようだった」

間もなく彼女はコロナに感染した。3週間後、彼女の体調は非常に悪くなった。ロングコロナとなったため、彼女の登録医資格は取り消され、医師として働くことが出来なくなった。

「37才になってから父親のいる実家に戻るようになるとは思わなかった。現在収入ゼロだ。キャリアブレイク（一時休暇）を12か月とることにしたが、登録医資格を取り戻せる体調が回復するかどうかわからない。働いて、家を買う計画は棚上げとなってしまった」

SNSで同じ境遇の人々と相談した彼女は昨年8月に、友人の医師ショーン・クレシ氏とともにサポート・ネットワークを立ち上げた。

すなわち業務上で感染し、ロングコロナとなった医師の健康とキャリアを守る必要があることをアピールする Long Covid Doctors For Action (LCD4A) キャンペーンである。

「自宅を売却しなければならなくなった医師もいる。破産も増えている」と。

ヘルスケアワーカーの25人に1人はロングコロナとなっている

LCD4Aには就労能力低下のため解雇された医師が入っている。彼らは20～30年以上早く病気退職を申請している。研修プログラム参加資格を失った医師もいる。NHSの仕組みの中で働く資格を失ったジェネラルフィジシャンや労働契約更新を拒否されている医師もいる。医療機関の経営者の多くは、就労能力が低下した医師を雇用することを避けるようになっている。

ファンリー氏は「診療中の医師の健康はしっかり守られるべきだ。新型コロナは空気感染する。パンデミックが始まってから3年半たつが、ヘルスケアワーカーと患者はレベル3のバイオハザードにばく露されたままだ」

(BSL3 ヒトまたは動物に感染すると通常重篤な疾病を起こすが、一つの個体から他の個体への伝播の可能性は低いもの : Chikungunya Colorado tick fever Eastern equine encephalomyelitis Gatah Hantaan Human immunodeficiency (HIV1,2) Influenza A (H5, H7, 高病原性鳥インフルエンザウイルス) Kyasanur Forest disease Louping ill Mayoro Murray Valley encephalitis Nipah Negishi Powassan Rabies(street strain) Rifit Vally fever SARS coronavirus Semliki Forest St.Louis encephalitis Tick-borne encephalitis Venezuelan equine encephalitis West Nile Western equine encephalomyelitis)

ロングコロナは新型コロナウイルス感染後長期間（4週間以上）続く体調不良を指し、他疾患によるものではないことが確認された病態。多臓器にわたる200以上の症候がある。

イギリスの統計では、人口の2.9%、190万人がロングコロナとなっているという。世界全体では感染者の10%が発症するという。医師などのヘルスケアワーカーがどれくらいロングコロナとなっているか正確なデータはない。イギリス国家統計局はヘルスケアワーカーの4.41%がロングコロナとなっていると発表している。

「あり得ないほどダメな」感染防止対策

2022年12月から翌年1月、イギリス医師会はLCD4Aと共同で、ロングコロナ医師の調査を行った。

603名から回答が寄せられ、18%が就労不能と答えていた。コロナ前57%がフルタイムワークだったが、コロナ感染後31%に低下した。49%が収入を失った。この調査結果は7月にイギリス医師会のHpに発表された。その中では、多くの医師が十分な感染防止対策を提供されなかったことが分かった。

N95レベルの高性能マスクを提供された医師の割合はおどろくほど低かった。

感染時に94%の微粒子ブロック機能を持つFFP2を着用していた医師は11%、99%ブロックのFFP3は16%にとどまった。この報告書では、ジェネラルフィジシャンでもファンリー氏のような外科系医師への高性能マスク配布は予定されていなかったと指摘している。しかたなく、これらの医師は自費でマスクを買うことを強いられた。

イギリス医師会は、就労中にコロナに感染した医師に対する経済的支援とケアを強化するために、現在進行中の新型コロナ対策検証活動に、この報告書を提出することになっているという。イギリス医師会科学委員会議長ダビッド・ストrein氏は、本誌に「コロナ診療中に危機にさらされ、ロングコロナと言う厳しい状況に追いやられた医師達に対するサポートは行われていない」と語った。

疾病手当の拡大が実施されない

本誌はロングコロナに苦しむ医師がたくさんいることをつかんでいる。アレクシス・ギルバート氏（公衆衛生コンサルタント、ヨークシャーとハンバーの健康保護チーム）はいつの間にか感染した。感染前は活力にあふれた運動好きの人物で、登山も、長期間のオンコール勤務も楽勝でこなしていたのだが、感染後は、入浴も洗顔も、子どもの世話もできなくなったという。未来の計画がすべて潰れた。何時急な体調不良がぶり返すかわからないと語った。

彼は本誌に「8か月も寝たきりとなり、仕事が出来なかった。2人の子どもがおり10月に疾病手当が打ち切られるたならどうすればいいのか。治療法もなく、今の体力と認知機能のままでは、働けそうもない」と語った。

NHSは、コロナパンデミック中、ロングコロナとなったすべての病院スタッフへの疾病手当金の支給延長を行うことを決めた。しかし、昨年9月、さらに6か月間の全額支給、その後6か月間の半額支給を行うように仕組みを変えた。この結果、ロングコロナが続いている場合、23年3月からは疾病手当が半減することになった。ジェネラルフィジシャンには、病状にかかわらずこれらの特別措置が適用されなかった。

西ロンドンのある雇用されたジェネラルフィジシャンは、匿名で本紙に語った：「この2年間ほとんど収入がない。職場には在籍しているが、休業中であり、以前のように働けるようになる見通しが無い」

援助の必要な医師に対する義援金支給の必要性が緊急に必要な事態となった。ジェネラルフィジシャンとその家族をサポートするカムロンファンドは、「2022年に急にロングコロナのための医師からの支給申請が増えた。23年前半には、前年度よりも援助に関する問い合わせが67%増えた。ロイヤルメディカル慈善基金が援助した医師数は以前の11%増となった」と語った。

職業病

ロングコロナは医師たちの人生、ウェルビーイング、労働能力を大きく暗転させた。回答者の一人は「この上なく悲惨な人生に変わってしまった。楽な日は一日もない」と語った。

レイチェル・アリ氏（43才、ジェネラルフィジシャン、以前極めて健康）は2021年のクリスマスイブにコロナに感染した。彼女は「ロングコロナで人生がひっくりかえった。パートナーと子どもたちの世話がまったく出来なくなった。30分以上車の運転が出来なくなった。仕事にも行けない。普通の疲れではない。以前は、ひどく疲れても子育てとジュニアドクターとしての仕事をこなせた。今は、まったく何もできない。頭が回らない。話し始めても、途中で言葉が出なくなる。何を話したいのか思い出せない。ベッドに行こうとしても、椅子から立ち上がれない。立ち上がるエネルギーもない。足にも全然力が入らない」と語った。

ロングコロナの医師にはどのようなサポートが必要とされるのか？ イギリス医師会とLCD4Aは5項目を挙げる。とりわけ、ロングコロナを職業病であると認定して、医師をはじめとしたヘルスケアワーカーすべてをサポートすることを求めている。

ロングコロナのヘルスケアワーカーサポートのためのイギリス医師会とLCD4A の5項目要求

1. 経済的サポートの充実
2. ロングコロナを職業病と認定する事（ロングコロナ関連症状をすべて対象とすること）
3. 身体的精神的診療ケア体制を整備して、病状の包括的評価、研究、治療をすすめる
4. 医療現場における感染防止対策を徹底する
5. ロングコロナ医療者が職場復帰できるよう、勤務体制のフレキシブルな調整をはじめとしたサポート体制を充実させる

イギリスの労働組合会議は、3月に同様の要求を発表した。また、2022年11月に職業病対象疾患に関する政府への答申を行う労働災害諮問委員会は、ロングコロナを患ったヘルスケアワーカーを労働災害給付の対象とするよう答申した。

今のところそれに向けた政府の動きは見られない。保健社会福祉省は本誌に、ロングコロナが人々に深刻な障害をもたらすことを認識しているが、「現時点でロングコロナを職業関連疾患と認定するためには証拠が不十分だと考えている。定義が明確でなく、病状の重さが変動し、症状の数が極めて多すぎるからだ」と語った。

医師達は、これらの問題点をクリアすることは極めて困難だと認識している。

「ロングコロナを職業に起因した疾患と認めないのは、まったく政治的な理由によっている。もし医師やヘルスケアワーカーのロングコロナを労災と認めたなら、ヘルスケアワーカー以外の人々が業務上新型コロナに感染した場合も労災と認めなければならなくなり、その膨大な費用負担を防ぐ必要があると政府が考えているからだ」とアリ氏は語った。

「ロングコロナは気のせい」

ロングコロナの診断とケアのための施設と機会を増やせというイギリス医師会とLCD4Aの要求は少しずつ実現している。しかし、ロングコロナを患った医師たちは、ロングコロナの診断とケアがまったく適切に行われていない現状に直面している。イギリス医師会とLCD4Aの調査によれば、ロングコロナ状態の医師の半数は、NHSのロングコロナクリニックへの紹介を受けていないという。ある医師は本誌に「私のかかりつけジェネラルフィジシャンは、相談に乗ってくれたが、ロングコロナに関心がなく、私のロングコロナの病状をケアする専門的知識と技量を持っていなかった。結局、自分でケア方法を探さなければならなかった」と語った。

「同僚の医師にロングコロナで悩んでいることを相談しても、「気のせい」ではないかと言われて、まったく理解されなかったと語る医師もいる。ジェネラルフィジシャン自身が、ロングコロナを抱える人々の診療予約を拒否することで分かるように、ロングコロナは「気のせい」論に囚われている」と、ロンドンのあるジェネラルフィジシャンは、本誌に語った。「ほとんどのジェネラルフィジシャンは、彼らが出会ったことのない、普通の生活も仕事も全くできないと絶望している患者を目の前にして、どうすればよいか途方に暮れているのだ。そのような主訴の患者が紹介されても断るしかない」

保健社会福祉省のスポークスパーソンは、「政府は世界的専門家のロングコロナの病態と治療ケア研究に5千万ポンド（90億円：1ポンド約180円）の予算を充てている」と語っている。

「NHSはNHSの医師と全国に展開している100か所のロングコロナ専門クリニックを支援している。NHSはロングコロナに苦しむ人々のサポートのための予算3億1400万ポンド（600億円近く）を計上している」

ファンリー氏のような医師にとっては、これらの対応は全く納得できるものではない。「命を懸けて患者さんを救うために仕事をした結果、自分自身の人生がままならないものとなってしまった。この状況を変えるには、自分だけが頑張るほかないのか？」と彼女は語る。

「管理者（経営者）が十分な感染防止対策を行わなかったために、新型コロナの患者さんの診療をしたわれわれはコロナに関し、ロングコロナになってしまった。どうしてヘルスケアワーカーを守るしっかりした手立てを雇用主は講じなかったのか。新型コロナが蔓延したとき、国の要請に従って、われわれは精一杯仕事をした。しかし、そのためにロングコロナになった私たちを助けることをこの国はやらなかった。それでいいのか？」

（この後の3名のロングコロナヘルスケアワーカーの話が記述されています。原文をご覧ください）